

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	10
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	4
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	1
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	7
1. その人らしい暮らしの支援	5
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	23

事業所番号	1473400487
法人名	医療法人桜城会
事業所名	グループホーム友愛
訪問調査日	令和5年1月13日
評価確定日	令和5年2月21日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は23項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400487	事業の開始年月日	平成16年8月1日
		指定年月日	平成16年8月1日
法人名	医療法人桜城会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	(246-0037) 横浜市瀬谷区橋戸3-26-6		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和5年1月3日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気のもとで個人の人格を尊重し、自立のお手伝いをします。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1大和地所ビル9F		
訪問調査日	令和5年1月13日	評価機関 評価決定日	令和5年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- この事業所は医療法人桜城会の経営です。同法人は大和市で訪問診療を中心とした歯科医院を1ヶ所、横浜市瀬谷区でグループホームを1ヶ所経営しています。立地は相鉄線「瀬谷駅」から徒歩15分程の厚木街道から1本路地に入った住宅地の中にあり、外観は周りの景観に馴染むようアイボリーを基調とした平屋建ての造りになっています。事業所のすぐ目の前には橋戸南公園には、児童図書館があり、過去には運営推進会議の会場としても使用していました。また、橋戸南公園は比較的広い公園であり、自治会のお祭りなども開催されています。相鉄瀬谷団地自治会は約490世帯が加入しており、活動も比較的盛んに行われています。
- ケアについては、開設当初に作成した理念「家庭的な雰囲気のもとで個人の人格を尊重し、自立のお手伝いをします。」に基づき、各々が入居以前からの生活を継続できるよう、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、趣味や好きなことをして過ごしていただくようにしています。また、職員の入れ替わりも少ないことから、管理者と職員の関係性やチームワークも熟練しており、円滑に業務や情報共有がなされています。
- 職員の研修については、介護経験や勤続年数の長い職員が多く在籍していることから、外部研修の受講や事業所内研修の内容がマンネリ化しないよう、インターネットから研修材料を探したり、より専門性の高いテーマを取り入れる等、工夫しながら研修を実施しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム友愛
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し実践している。	事業所の理念は開設時に作成した「家庭的な雰囲気の下で個人の人格を尊重し、自立のお手伝いをします」ものを継続し、理念は事務所内に掲示しています。職員は、各々が入居以前からの生活を継続できるよう、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、趣味や好きなことをして過ごしていただくように支援しています。		今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや運営推進会議をとうし交流をひろめている。	南橋戸自治会に加入し、行事の際には利用者と共に行事に参加して、地域との交流を図るようにしています。コロナ禍以降は地域との交流機会は減少していますが、コロナ収束後や感染状況をみながら交流を再開したいと考えています。		今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	其の方向ですすんでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	良いと思われる情報は進んで取り入れている。	運営推進会議は現在書面にて開催しています。事業所の現状や活動状況について報告を行い、なにかあれば電話で意見等をいただくようにしています。地域の情報については、回覧版や地域の掲示板から入手しています。また、地域に住んでる職員もいるため、職員からも時地域の情報を得ています。		今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に困ったことや対処に迷った時は指導課に相談している。	横浜市や瀬谷区の担当者とは、不明点や事業所で判断に迷う事案が生じた際に連絡を取り、助言や相談にのっていただきながら事業所運営を行っています。コロナ禍により、マスク・ゴム手袋・防護服・抗原検査キッドの配給支援を受け、感染症防止対策を講じています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の無いホームとうたっているので現在その様なことは社内会議で話す程度である	身体拘束については、法定研修に定められており、事業所では年2回身体拘束に係わる研修を実施しています。社内会議でも資料や他施設での事例を用いた勉強会、2ヶ月に1回開催している身体拘束委員会でも日々のケアの中で身体拘束につながり兼ねないケアや対応がないか討議しながら、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	今後の継続	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束の無いホームとうたっているので現在その様なことは社内会議で話す程度である	虐待についても、身体拘束と同様に年2回研修を実施しています。社内会議でも資料や他施設での事例を用いた勉強会、2ヶ月に1回開催している身体拘束委員会でも日々のケアの中で虐待につながり兼ねないケアや対応がないか討議しながら、虐待の防止に努めています。	今後の継続	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者がいないがそうしたい			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そうしている。			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そうしている。	重要事項説明書に内部や外部の苦情相談窓口を明記し、契約時に家族へ説明しています。来訪時や電話連絡した際に近況報告と併せて意見や要望を伺うようにしています。利用者からの意見や要望については、日々の関わりの中で聞くようにしており、本人の状態などを考慮しながら可能な限り反映させるよう努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そうしている。	管理者は職員の出退勤時をはじめ、業務や休憩時間にもコミュニケーションを図り、意見や提案を吸い上げるようにしています。勤続年数の長い職員も多く、管理者と職員は忌憚なく意見や提案を言い合える関係が構築されています。	今後の継続
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そうしている。	就業規則に給与・資格手当・休暇取得等に関する規定が明記されており、いつでも閲覧できるよう事務所に置いています。就業規則に変更等が生じた際には、全職員に周知しています。シフト作成においては、希望した休みを取れるよう調整しています。	今後の継続
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	そうしている。	入職時には事業所の理念・方針、認知症研修について研修を行っています。その後、OJTで早・日勤・遅番・夜勤の勤務を経験してもらうようにしています。事業所内では年間研修計画に基づいた研修を実施し、外部研修の案内が届いた際には職員にも内容を周知するとともに、職員の能力に応じて受講を促すようにしています。	今後の継続
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のホームと連絡し相談したり入居者応募の情報を交換している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の不安をとくよう慣れやすいよう心を開けるよう勤めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の不安をとくよう慣れやすいよう心を開けるよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の不安をとくよう慣れやすいよう心を開けるよう勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼されるような関係を築くよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	信頼されるような関係を築くよう心掛けている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そうするよう勤めている。	入居前の面談で本人を取り巻く人間関係や思い出の場所等の把握に努め、入居後も馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めています。しかしながら、現実問題として加齢に伴うADL等の低下や遠方等へお連れすることは困難なケースもあるので、可能な範囲で馴染みの関係性を継続できるよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そうするよう勤めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そうするよう勤めている。			
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	そのように勤めている	入居前のアセスメントで医療、生活歴、ADL、暮らし方の希望について話しを伺いながら、思いや意向の把握に努めています。アセスメントで得られた情報を基に、日々の関りや会話の中で本人が発した言葉や職員の気づきを記録に残して情報を共有しています。		今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活をホームに入っても変わらぬようしている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存能力を把握している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	そのように勤めている	アセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成し、暫くの間は経過を観察しながら情報を収集しています。その後は、短期は3ヶ月、長期は6ヶ月で見直を基本として、現状に即した介護計画を作成しています。利用者の状態変化や特変が生じた際には都度更新しています。	今後の継続	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのように勤めている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのように勤めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	そのように勤めている			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医者はなるべく変えないで本人の情協を長い目で見ていただいている。	入居後の主治医は、本人と家族の意向を尊重して決めていただくようにしています。提携医の往診は月2回、訪問看護師は週1回の巡回で利用者の健康管理と共に医療面についての相談に乗っていただいています。口腔ケア、歯科医の治療は必要に応じて受けています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	そのように勤めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そのように勤めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのように勤めているし重度化がすすむでる時こそ話し合いの場を多くしている	入居時に重度化や終末期の指針について説明し、延命治療の希望と併せて確認し、同意書を交わしています。事業所では看取りを行う方針とし、重度化した場合や状況の変化に応じて、再度家族の意向を確認しています。看取りを希望される場合は医療機関、家族と連携を取りながら、穏やかな最期が迎えられるようチームで支援に取り組んでいます。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	そのように勤めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練や火災訓練で対処している	年2回地震や火災を想定した訓練を実施しています。現在は感染症防止のため、職員のみで初動対応・避難動線について確認しています。備蓄品は3日分程の水・食糧・衛生用品・ラジオ・懐中電灯等を準備しています。また、事務所には災害・緊急時の対応フローを掲示し、どの職員でも対応できるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その様な対処を心がけている		人格の尊重やプライバシーについては、入職時に説明していますが、入職後の年間研修計画にも、マナー・接遇・個人情報・権利擁護に関する研修を実施しています。社内会議でも折をみて、接遇・マナー・倫理について話し合う機会も設けています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その様な対処を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのように心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	そのように心がけている。		以前までは職員がメニューを考案し、調理した食事を提供していましたが、職員の負担軽減と利用者に関わる時間を多く持てるようにすることから、業者に発注して湯せんの食事に切り替えました。できる方には準備や片付けに参加していただき、残存能力の維持につなげています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように対処している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのように対処している			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自パターンを把握しトイレ時間を見て事前に声掛けをしている	利用者全員の排泄表をつけ、一人一人の排泄パターンの把握に努めています。可能な限りトイレで排泄できるよう、時間やタイミングを見計らった声掛けや誘導を行っています。カンファレンス時には排泄支援方法を検討しながら一人ひとりに適した排泄支援を行っています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのように対処している			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	そのように対処している	週2回、午前中から午後にかけて入浴支援を行っています。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調や気分を考慮しながら入浴を促しています。衣服の着脱時には身体チェックを行い、痣や皮膚疾患などの早期発見に務めています。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤も使用し、季節感等の変化を持たせながら入浴を楽しんでいただけるようにしています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	そのように対処している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	そのように対処している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのように対処している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	そのように対処している	天気や気候の良い日には、すぐ目の前にある橋戸南公園、ADLに応じた散歩コースに出かけています。あまり外出を希望されない方でも、会話の中から外に出るきっかけを作るようにしています。また、希望があればコンビニやスーパーにもお連れして、買い物を楽しんでいただくように支援していましたが、現在は感染症防止のため、外出は自粛しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのように対処しているが金銭感覚がない方にはその様な対処をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのように対処している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように対処している。	リビングは車椅子同士が行き来できる程のゆとりのある設計になっており、大きな窓も2つある為、室内は明るく開放的な空間になっています。季節に応じた装飾やレクで作成した作品を飾り、殺風景な空間にならないように留意しています。キッチンアイランド式になっており、調理しながらでも利用者の見守りが出来るようになっています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのように対処している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように対処している。	エアコン、照明、クローゼットは完備されていますが、それ以外に必要な物は在宅時等に使い慣れた物や馴染みの品を持ち込んで頂くように伝えています。ベッドや家具等の配置については、動線を考慮しながら配置することで、生活しやすい居室作りがされています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのように対処している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム友愛

作成日 令和5年1月13日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	18	外出支援	天気や気候の良い日には積極的に声をかけて外出を促す。	時間を設けて、個別対応にて外へお連れする。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。